

ブエノスアイレス日本人学校 (その2 学校生活)

宍戸和郎

<最上級生は女中部屋！？>

筆者が編入学した当時のブエノス日本人学校は、前年の開校時から少し増えましたが、小中合わせて生徒は20数名程度。先生5～6人で、村の分校といった風情でした。校舎は、ロス・インカス通りの角地にあった一軒家で、石造りの、二階建て。多少古びていましたが、堂々とした構えでした。現在はマンションが建っているようです。今でこそ高層マンションが林立する地区ですが、あの頃はあまり高い建物もなく、のどかな感じでした。

人数の関係で、当然のように複式授業となっていました。小学校1・2年が寝室、3・4年が書斎、5・6年が居間という具合に分かれていました。中1は2階のもう一つの寝室を使っていましたが、中2・3年は常に少数派（最初3人、年度末には筆者一人）で、一番狭い部屋を割り当てられていました。台所の脇の、窓が小さい小部屋…。今にして思えば、あれは女中部屋だったのでしょう。

<体育の授業は延長可>

小人数なので、体育の授業は何学年かまとめてやっていました。庭は広くなかったですが、バレーボールやドッジボールならできました。ゲームが白熱してくると、時間が来ても「先生、もっとやりたい!」と、よくなりました。先生の方も生徒達の熱意にほだされて、「よし、次の授業も体育だ!」となりました。古き良き時代です。



体育の授業



体育祭

<複式授業の作法>

現在もそうだと思いますが、カリキュラムは基本的には日本国内と同じで、教科書も日本から取寄せたものを使っていました。

ただ、人数の多い（といっても、4人程ですが）中1以外は、上記のように、基本的にどの学年も複式授業でした。先生が一方の学年を教えている時は、他の学年は静かに自習とい

うことになります。ただ、自分より下の学年の授業に、「先生、私これ知ってる！」などと介入するなどはご法度です。

親の異動に伴う生徒の出入りにより、学年の組合せが変わることもあります。年度末近くになって、中3が筆者一人となり、なぜか小6も女の子が一人という状態になったことがあります。中3と小6のクラスという、珍しいものが出来上がりました。年齢差があるので、筆者もつい兄貴風を吹かし、先生と二人でその子に「教育・指導」を施してしまいました。複式授業の作法にもとる行為と言わざるをえません。

<金曜日は漫画曜日>

娯楽の少ない時代でした。ビデオも、インターネットも、ゲーム機もありません。テレビも地上波の現地放送だけ。外出しても、せいぜい映画館に行く程度。

そんな中で、日本からOCSで取寄せる漫画雑誌は、子供達にとって唯一かつ最大の娯楽であったと思います。ただ、自分のウチで買ってもらえるのは、せいぜい1～2誌。仲間と交換して、回し読みしたいのですが、お互いに家が離れています。そこで、毎日全員が会する学校で交換するのが手っ取り早い、との結論になります。

学校側も、故国から遠く離れて暮らす生徒達を不憫に思ったのかもしれませんが。週末の金曜日に限り、学校に漫画本を持ってきて構わないこととなりました。勿論、授業中に読むのは御法度ですが、行き帰りのスクールバスでは、まあよいとされました。いつもは、ワーワーと騒がしい車内も、金曜日だけは、水を打ったような静けさでした。

<卒業第一号>

瞬く間に1年が過ぎ、筆者は、日本人学校中学部を卒業することになりました。開校が1年半前の10月ですから、学校として卒業生を出すのはこれが初めてではないのですが、前回は小学部の卒業生だけでした。従って、その年、中学部は初めての卒業生を送り出すこととなったのですが、その時点で3年生は筆者一人。卒業一期生どころか、図らずも、卒業第一号の栄誉を担うこととなりました。

卒業式は小学部と合同でしたが、中学部は、「総代」で卒業証書を受けるのも、答辞を読むのも筆者の一人舞台となりました。もらった卒業証書を見たら、ちゃんと「第一号」と書いてありました。

終わりに

その後筆者は、現地校に1年半在籍して帰国しました。大学卒業後、縁あって日本輸出入銀行（輸銀。現、国際協力銀行）に奉職することとなりましたが、その首席駐在員として、1998年から3年強、再びブエノスアイレスに赴いたことには運命的なものを感じます。

実は、輸銀はすでにその当時ブエノスに駐在員事務所を構えていて。筆者の11代前に当たる首席駐在員のお子さんとは、文字通り机を並べていたのです。ただその時は、「不思議な名前の銀行があるな」と考える程度で、まさか将来自分がその銀行の首席駐在員として舞

戻ってくるなどとは、想像もしませんでした。

(シシドカズロウ：当協会業務執行理事)



中央向かって左「富島校長」、同向かって右「大使館奈良公使」(お子さんが小学部に在籍)、前から2列目左端「池田先生」、前から3列目右端「用務員さん夫人」(用務員さんのお名前不詳)、後列右から「富島先生」、「内藤先生」(後ろから少し顔を出している方)、(左端)「用務員さん」



開校1周年記念学芸会 中学部出し物。竹取物語現代版